

紋道

下地南・上野野原コース

新
宮古島市 neo 歴史文化ロード

宮古島市 neo 歴史文化ロード 繼道 ～下地南・上野野原コース～

絶
道

あやんつ



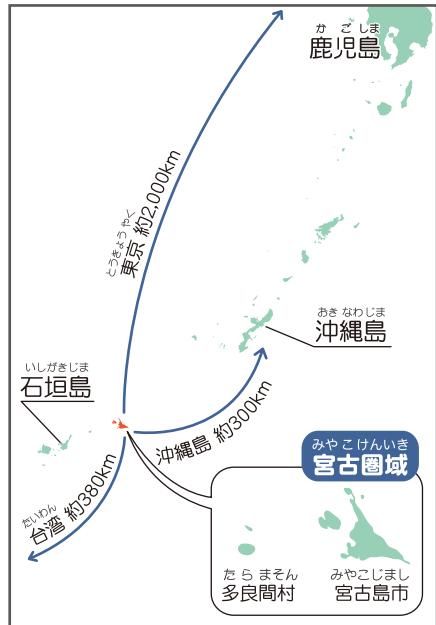
おもむき　みち　みやこ
「趣のある道」のことを、宮古のことばで「あやんつ」といいます

みやこじまし いちめんせき 宮古島市の位置と面積

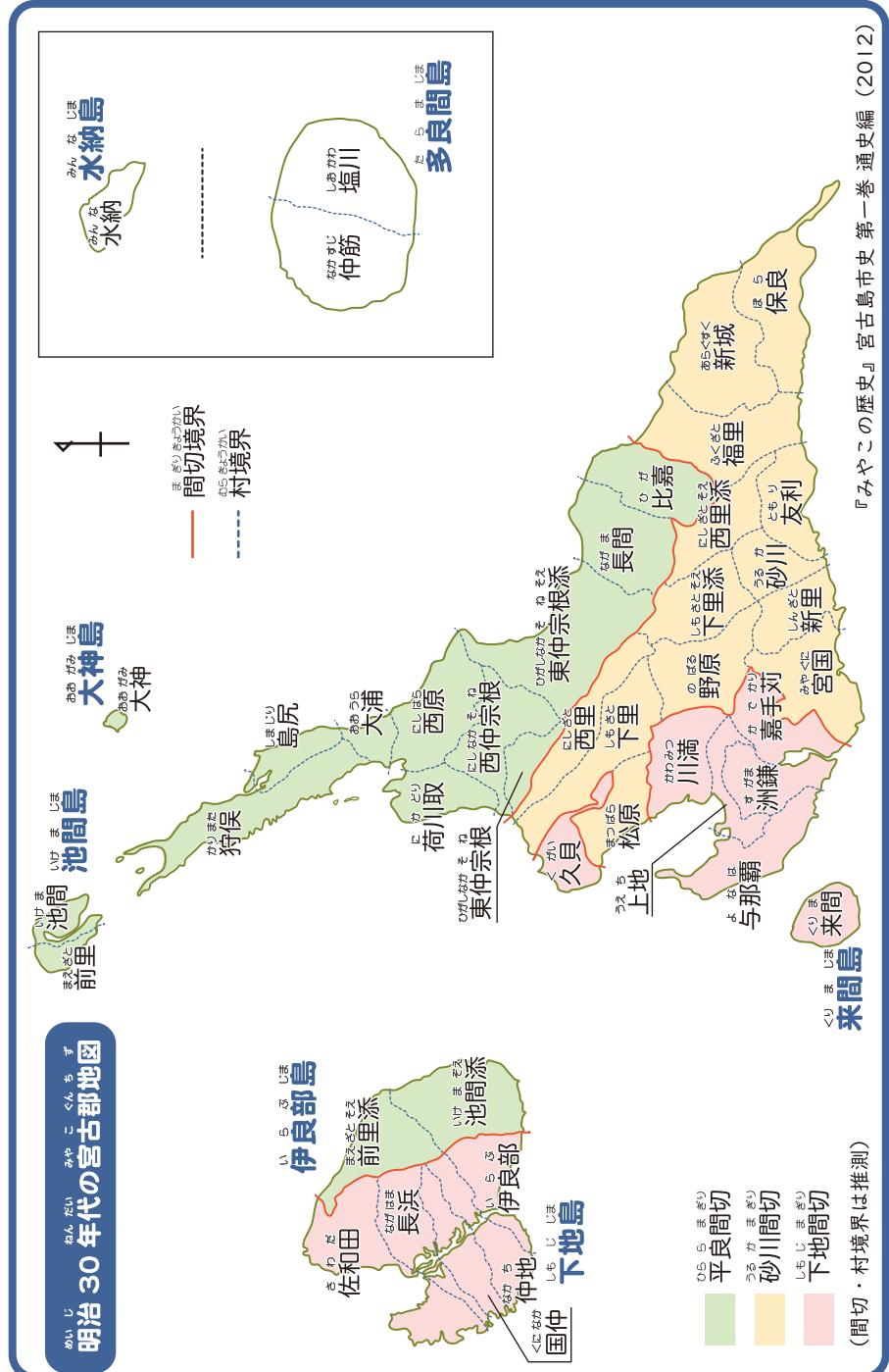
みやこじましまいしょうしまみやこじま
宮古島市は大小6つの島(宮古島、下
いけまじまおおがみじまくりまじまいらぶじましち
池間島、大神島、来間島、伊良部島、下
じじまこうせい
地島)で構成されています。

そう めん せき へい ほう じん
総面積は204平方キロメートル、人
こう やく まん だい ふ ぶん
口約5万6,000人で、人口の大部分は
ひら ら ち く しきうちゅうう
平良地区に集中しています。

しま ぜん たい へい たん さん がく ぶ おお
島全体がほぼ平坦で、山岳部や大き
か せん せい かつ よう すい
な河川もなく、生活用水などのほとん
ち か すい たよ
どを地下水に頼っています。



明治 30 年代の宮古郡地図





宮古島市neo歴史文化ロード 綾道（下地南・上野野原コース）



うたき さいし おこな たいせつ ぱしょ しんせい はい
※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう。

みや こ じま し い ち めん せき 宮古島市の位置と面積	02
めい じ みや こ ぐん ち ず 明治30年代の宮古郡地図	03
さん さく しも じ みなみ うえ の の ばる 散策マップ(下地南・上野野原コース)	06
下地南コース	
しも じ うえ の なり た 下地、上野のなり立ち	08
かわ みつ ぼう おど し してい む けいみんぞくぶん か さい 川満の棒踊り 市指定無形民俗文化財	09
かわ みつ ぼう おど はじ 川満の棒踊りの始まり	10
みや こ たか ち ほ さ ど 宮古の高千穂、佐渡おけさ	11
しも じ 下地のヨーンシー	12
かわ みつ じ けい す し してい こ もん じよ 河充氏の系図 市指定古文書	14
しも じ い じん かわ みつ ぶどうぬ 下地の偉人、川満大殿	15
ふる ばか だ し してい んねん き ねんぶつ しょくぶつ 古墓を抱くアコウ 市指定天然記念物(植物)	16
アコウとガジュマル	17
よ な は し せき ぼ し してい し せき 与那霸石墓 市指定史跡	18
よ な は いち だん しも じ よ な は かん けい 与那霸ばらの一団と下地与那霸の関係	19
よ な は わん いま 与那霸湾、今むかし	20
じょう やく よ な は わん ラムサール条約と与那霸湾	22
サキシマスオウノキ 市指定天然記念物(植物)	24
う ぶか ぱか 浮かぶ！？ サキシマスオウノキ	25
う たき しょくぶつ ぐん らく トマイ御嶽の植物群落 市指定天然記念物(植物)	26
まえ やま う たき しょくぶつ ぐん らく 前山御嶽の植物群落 市指定天然記念物(植物)	27
けんりゅうさんじゅうろく ねん おお なみ 「乾隆三十六年大波」碑 市指定史跡	28
しも じ つ なみ でんせつ 下地の津波伝説	29
あか さき う たき し してい ゆうけい みんぞくぶん か さい 赤崎御嶽 市指定有形民俗文化財	30
あか さき う たき あわうらな 赤崎御嶽の粟占い	31

いり え わん いま 入江湾、今むかし	32
かわ みつかめ きち にん とう せい はい し うん どう 川満亀吉と人頭税廃止運動	34
じょうせき し してい し せき クバカ城跡 市指定史跡	36
あ づ でん せつ クバカ按司のおもしろ伝説	37
上野野原コース	
さん さく うえ の の ばる 散策マップ(上野野原コース)	38
うぶたき じょ せき し してい し せき 大嶽城跡 市指定史跡	40
のうぎょうしん おとこ 農業神になった男 ピギタリ	41
うぶたき こう えん しょくぶつ ぐん らく し してい んねん き ねんぶつ しょくぶつ 大嶽公園の植物群落 市指定天然記念物(植物)	42
の ばる だけ たま いし けん し て い し せき 野原岳の靈石 県指定史跡	43
の ばる くにせんたく む けいみんぞくぶん か ざい し してい む けいみんぞくぶん か さい 野原のマストリヤー 国選択無形民俗文化財・市指定無形民俗文化財	44
まん けづ した 満月の下のマストリヤー	45
みや こ じま の ばる 宮古島のパートトゥ(野原のサティパライ)	46
くに し してい ジュウ む けいみんぞくぶん か ざい む けいぶん か い さん 国指定重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化遺産	46
さと ばら サティパライ=里祓い	47
みや こ じょう ふ くに し て い ジュウ む けいぶん か ざい 宮古上布 国指定重要無形文化財	48
ちよ ま いと て う くに せん い ほ ぞん ぎ じつ 苧麻糸手縫み 国選定保存技術	49
おりもの 織物まめちしき	50
い せき し してい し せき ピンザアブ遺跡 市指定史跡	52
に ほん は つけん きゅう せっ き じん こつ 日本で発見された旧石器人骨	53
の ばる かがひはら りん ぶん か ざい もり 野原鏡原のイヌマキ林 ふるさと文化財の森	54
みや こ じま し 宮古島市のシンボル	55
みや こ うま けん し て い んねん き ねんぶつ どう ぶつ 宮古馬 県指定天然記念物(動物)	56
に ほん さい いらい ば みや こ うま 日本在来馬・宮古馬	57
たい ふう き みや こ じま 台風銀座 宮古島	58
みや こ じん ぶつ ねん びょう 宮古の人物年表	60
ぶん か ざい たい い けい す い か れい 文化財の体系図・一例	62

下地南・
うえ の の ばる
上野原マロニエコース

コース全長約26km

所要時間:車で2.5時間



じょうやく よなはわん
ラムサール条約と与那覇湾 P22

サキシマスオウノキ P24

うたき しょくぶつ ぐんらく トマイ御嶽の植物群落 P26

はま こうえん
サニツ浜ふれあい公園

よなはちくぼうさい
与那覇地区防災センター

けんりゅうさんじゅうろくねんあおなみ ひ 「乾隆三十六年大波」碑 P28

まえ やま う たぎ しょくぶつ ぐん らく
前山御宿の植物群落 P27

のばるかがみはら りん
野原鏡原のイヌマキ林 P54

みやこじまし
宮古島市
れきしへんかしりょうかん
歴史文化資料館

※集落内の挿所に許可なく立ち入ることは禁じられています

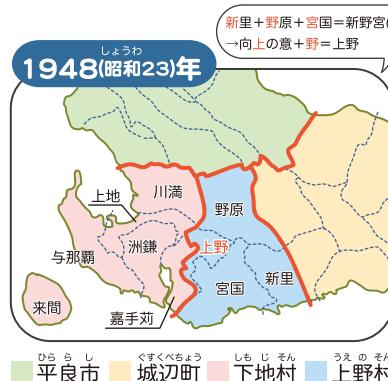
下地、上野の成り立ち



間切とは琉球王国時代の行政区
分のひとつで、平良、下地、砂
川間切の3間切および多良間島
の43か村があった。



1908年に沖縄県及島嶼町村制
が施行。宮古郡は平良村(多良
間島含む)、下地村、城辺村、
伊良部村の4村に編成された。



1948年、下地村から、野原、
新里、宮国の3か字と、字嘉手
苅の一部(字上野)が分村し、新
しく上野村が誕生。



2005年、平良市、城辺町、下
地町、上野村、伊良部町の5市
町村が合併し、宮古島市が誕
生。宮古郡は多良間村1村のみ
となった。

し し て い ご けい みん そく ぶん か ざい
市指定無形民俗文化財

1981年(昭和56)年2月17日指定

川満の棒踊り



川満の棒踊りは、ふたりが激しく打ち合う二人棒と、5人が
勇ましいかけ声で棒を振り上げる五人棒があります。棒踊りの
始まりは、川満村が村立てされた1686(康熙25)年頃と伝わりま
すが、詳細ははっきりしません。以前は2、3、5、6、10人
棒の5種類があったとされますが、現在
は2種類が川満棒踊り保存会によって継
承され、集落の繁栄と無病息災を願い、
新年会や敬老会で披露されています。



川満の棒踊りの始まり

マムヌ(魔物)退治がきっかけ

1686(康熙25)年、川満村で疫病が大流行し、多くの村人が亡くなりました。村の長老たちが神女にうかがいをたてると「村の全ての御嶽に願いをかけよ」と告げられます。村人たちは手に手に棒を持ち、鉦を叩きながら御嶽をまわりました。すると最後列にいた老婆が「マムヌが舌を出してばかにしたように笑っている! 疫病はこの仕業だ! 退治せよ」と叫びました。村人たちはマムヌを取り囲み、持っていた棒で見事撃退しました。こうして疫病は収まり、人々は安心して暮らしました。

参考:『村の文化財を守る』
川満棒踊り保存会(2001)



目黒盛豊見親の政策

14世紀後半、宮古統一を成し遂げた目黒盛豊見親は、長く続いた戦いで荒んだ村人たちの心を落ちさせるため、昔から大切にされていた御嶽を補修し、祭祀などを盛んに執り行うことに力を注ぎました。そしてこれまで戦うために伝えられてきた武術を、娯楽として披露し、村人たちを楽しませました。

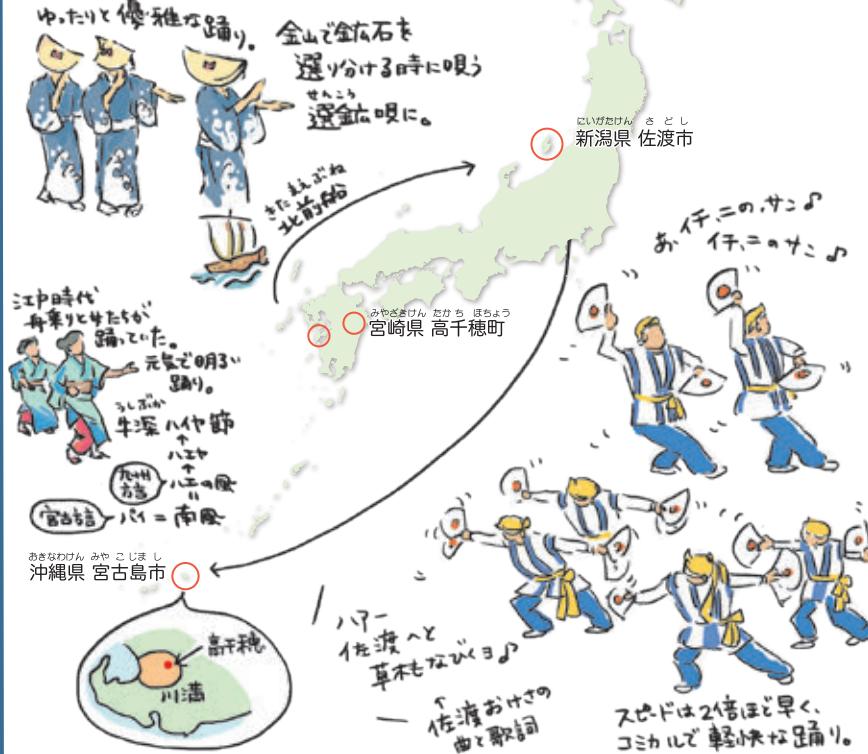
これが農村演技として今の「棒踊り」という形で残ったのではないかとも言われています。

参考:『平良市史第一巻通史編I』
平良市史編さん委員会(1979)

宮古の高千穂、佐渡おけさ

下地字川満に高千穂と呼ばれる集落があります。その昔、川満から分字するとき、「宮崎県の高地に高千穂というところがあり、この集落も下地の高いところにあるから、高千穂とつけた」という古老人の話が残っています。

また、高千穂集落では「佐渡おけさ」という踊りが戦前から踊られて



下地のヨーンシー

下地のお祭りなどで、「下地のヨーンシー」という踊りが、洲鎌、上地、与那霸の3集落によって披露されています。ヨーンシーは、沖縄県の国頭地方に伝わる「国頭サバクイ」という木遣り唄が元になっています。木遣りは「木を運ぶ」という意味で、重い木や石を大勢で運ぶ際に息を合わせるためにかけ声代わりとして唄われた労働歌です。

「国頭サバクイ」は、木を切り出したあと、浜まで運び出すまでの一連の様

国頭サバクイ



子を歌の中で表現していますが、下地のヨーンシーは、洲鎌集落が木を切り出し、上地集落が切り出された木を運び、与那霸集落が盛大に応援するという形で、一連の動作をそれぞれが同じ曲で踊り分けています。ヨーンシーは、首里城増改築の際に各集落から本島へ駆り出された男たちが習って帰り、広まったとされていますが、3つの集落が分担して踊るようになった理由などは分かっていません。

洲鎌集落



上地集落



与那霸集落



かわ みつ うじ けい ず
河充氏の系図



河充氏は、16世紀前半に下地の首長を務めた川満大殿を元祖にもつ家系です。その子孫である洲鎌集落の松村家がこの系図を保管しています。系図は家譜とも呼ばれ、宮古では18世紀中頃より制作されるようになりました。河充氏の系図は、初代から12代までの生没年月日と役職名などが、字体も筆跡も様々に書き残されています。親雲上、目差、与人などの役職名や、上級神女である大阿母などが記載されており、川満大殿の子孫が様々な時代で活躍したことをうかがわせます。

しも じ い じん かわ みつ うぶどうぬ
下地の偉人、川満大殿

洲鎌集落の川満大殿を歌ったあやぐ(古謡)には、「生まれ持った類まれな才知を生かし、さらに血の滲むような努力を続けた」と伝わっています。その甲斐あってか、いつしか仲宗根豊見親の目にとまり、下地の首長に任命されました。これは通常では例のない出世です。

また、大殿は庶民に寄り添う大慈悲深い人物として伝えられており、人々の暮らしに大きな影響を与えた功績が数々残されています。

1498(弘治11)年には、仲宗根豊見親の命令によりベウツ川の掘割工事を行い、嘉手苅南部の湿地に溜

まつ悪水を排出して農耕地を開拓しました。そして1506(正徳元)年には、加那浜地域の一大工事に取り組みました。加那浜は海の干溝に影響を受けやすく、大雨の後などは水や泥が深く、歩くのに苦労していました。ほかにも八重山の赤蜂征伐や、与那国との戦いに従軍し、戦功を立てた偉人でもあります。まさに「智・仁・勇」を兼ね備えたといえる川満大殿が妻と共に葬られたミャーカ(古墓の一形態)は、市の史跡として指定されています。

■ 加那浜の橋道(イメージ)



ようせいきゅうき『雍正旧記』より

